

GIGA 校内研修推進リーダー通信

石川県教員総合研修センター

R5.10.30 発行

高等学校編
特別支援学校編

GIGA 校内研修に関する調査結果(8月実施)より
参考になる情報を集めました。



GIGA 校内研修の**良好事例**（**効果があった事例**）

授業方法の転換、時間の有効活用

- ・今年度、本校では1学期に個別最適の授業実践を行った。その際、授業を撮影し、YouTube で動画の限定公開を行った。授業が見られなかった先生方も YouTube 動画を見ることができたため、授業者へのアドバイスを多くもらうことができた。

意欲を高める工夫

- ・特定のアプリについての活用方法の講座を、校内の教員を講師として、受講者は任意として実施した。校内講師のため、実際の授業での活用をイメージしやすい内容で、受講者も意欲的であった。
- ・普段から有効活用している若手教員を講師とした便利な使い方・初心者にもわかりやすい使い方の研修を行った。普段から使っている若手教員の話は、分かりやすく、また、教員同士のペア学習やシミュレーションなど実際にやってみる活動は今後活かせると感じた。
- ・「できるようになりたいこと」についてアンケートを取り、最も回答の多かった内容を研修で行った。参加した先生方がとても前向きな姿勢で、研修に取り組んで、終了後実践してくれた先生もいた。（その時のお題は Google フォームの小テストの作成及び成績の管理の方法だった）
- ・ICT 活用の困り事に関するアンケートを行い、教員が抱えている困り事に対する、解決の糸口となる情報紙を作成し配布した。質問件数は増え、教員同士でも話し合う場面が見られるようになった。
- ・アンケートを実施して要望が多い内容の研修を行った。習熟度別に行い、具体的なイメージがもてるような他校の実践を交えた内容にした。
- ・ICT 研修会では数種のメニューを用意し、教員が自分のニーズに応じた研修ができ、即授業に活用できた。
- ・学校全体や各学部で ICT 研修会を数回開催し、授業や取り組み事例の紹介や共有をするだけでなく、個々の教員が、実際に児童生徒の使用する ICT 端末やアプリを使った体験・演習、デジタル教材づくりを行うことで、授業のイメージやアイデアを構想しやすくなってきている。「やってみよう」「使ってみよう(使わせてみよう)」という段階から、実際に教科のねらいやより深い学びに迫れるよう、効果的に ICT を活用しようという段階に意識が向上してきている教員が増えてきた。



端末活用スキルの向上

- ・生徒の学習活動などのふり返りを、Google フォームを使って行う方法を紹介した。
- ・Google アプリを使用する際の生徒のイタズラ等を防ぐ方法を希望者に対して行った。内容としては、編集履歴の見方、編集者・閲覧者などの権限の変え方について説明した。
- ・基本的な Google フォームの利用について学んだ。アンケート等の作成が簡単であり、かつ集計等も瞬時にできることが理解でき、今後教職員間での利用が進むように感じた。

校内での交流による広がり

- ・教科会で行う授業の工夫などの情報交換が一番効果的。職員全体に行うよりも、いろいろな意見が出るので実践しやすい。
- ・職員会議後にミニ研修（10～15分を年に3、4回ほど）を実施している。今年度はGIGA校内研修推進リーダー研修で行った情報モラル教育の演習を実施した。ミニ研修の実施の際には、Chromebook、Chromecast、大型ディスプレイなど機器やロイロノートなどのアプリケーションの使い方の確認を織り交ぜながら行うことで、機器やアプリケーションの練習を兼ねることができている。また、継続してきた結果、ICT機器に慣れている教員が不慣れな教員をフォローする体制ができ、研修担当者やGIGA担当者が付きっきりにならずに済むようになった。
- ・職員会議（内・後）の全教員が集まった場で行うGIGA研修は、職員間で悩みやわからないところなど意見が出やすくよかった。その他、わからないことをすぐ聞き出せる環境づくりが大事。
- ・教科毎に取り組みを簡単にまとめてもらい、取りまとめたものを全体に返している。
- ・少人数で実施する事例報告会がよかった。

短時間で、生成AIに関する研修

- ・生成AIについての概論を説明した。先生方にも基本的なことを理解しておいて欲しかったため、どんな種類の生成AIがあり、どんな弊害があるか、これからの社会では必須になると思われることを説明した（10分間）

情報モラル研修

- ・情報科担当教員による情報モラル教育に関する研修を行った。内容は、著作権や生成AIと関連したもの。

GIGA出前サポートの利用

- ・県研修センターのGIGA出前サポートを年に3回実施するように計画を立てて実施した。令和5年度前期学校評価（生徒）の結果で、「ICT機器の活用等、工夫を凝らした授業の学び合いによって、学習意欲が高まった。」という生徒が1年前と比べて、90%から92%に向上した。令和5年度前期学校評価自己評価アンケート（教職員）の結果で、「ICT機器等を活用した授業実践に取り組み、授業改善に年間を通して取り組んでいる。」という教職員が1年前と比べて、90%から100%に向上した。今年度の校内GIGA研修はとても効果的なものになったと考えられる。特に小規模校でなかなか出張という形で研修することが難しい高校は、県研修センターのGIGA出前サポートを利用したら良いと感じている。

ICT支援員等との連携

- ・ICT支援員の方や、詳しい先生にミニ研修会を依頼して実施している。
- ・「ロイロノート」や「AI学習教材すらら」の担当者からの直接の講習は、マニュアルからはわからない、新しい発見があった。

若プロとの連携

- ・若プロ等で先生方が行ったICT活用に関する授業事例の紹介を行った。

全教員による互見授業

- ・全教員を対象とした互見授業では、ICT を積極的に使用した授業を行っていたので、良かった。
- ・教務課が設定した互見授業では、授業者全員が見どころシートを提出している。
- ・授業改善の一環として、校内互見授業を実施した。1人1回授業を公開し、ビデオ撮影してドライブにも保存した。いつでも見ることができ、端末の使い方や授業の進め方について勉強することができた。あらかじめ、授業の実施予定日をスプレッドシートに入力してもらい、別シートに実施日順に並び替えたものを示すことによって、参観の計画を立てやすいよう工夫した。

研修センターの研修を還元

- ・本校のテーマとなっている反転学習を題材として、「反転学習に活かす情報デザイン」と題して、「Canva」の研修を実施する。研修センターで学んだ題材が学校の教職員に還元できる内容が充実しており、助かっている。

プロジェクトチームの公開授業

- ・PT 教員の公開授業を見もらった。

模擬授業で活用につなげる

- ・初任者の校内研修で、あまり使い慣れていないツールを使った模擬授業を行った。教員としての立場だけでなく、生徒としての立場でお互いに模擬授業を行うことにより、それぞれのツールについて特徴を深く理解することができて、活用につながった。

アクセシビリティの設定等

- ・学部や学年で障害の重い児童生徒の ICT 端末のアクセシビリティの設定やアプリの紹介を行ったことで、授業で担当の教員が変わっても、同じようにそれらの操作ができる教員が増え、児童生徒の ICT 端末を使用した授業の保障ができています。
- ・研修会でマニュアルを作成したことで、参加できなかった教員もマニュアル資料を見れば、ICT 端末のアクセシビリティの設定ができるようになった。

苦手意識を払拭

- ・くじ引きでグループに分けて、iMovie の予告編を使って、実際に動画を作ってもらい、発表してもらった。最初は机に集まって iPad 内にある写真を使っていた先生方が、新たな写真を撮りに校内を歩き回ったり、自分たちで動画を撮ったりするなどして、夢中になって楽しみながら研修に参加することができた。苦手意識を持っていた先生方も、苦手意識が薄れたようで、率先して使うようになり、予告編に限らず、授業内に使用する先生が増えた。

